

障がい等地域支援ブロック会議報告(平成24年11月～平成25年5月)

資料 6

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
11	21	28人	ぶりずむ	精神的に弱く不安が多い知的障害者への支援について	支援学校卒業後は通勤寮に入寮し、そこから一般就労をしていた。自立のために3年前一人暮らしを始めてから落ち込むようになり、2年前宗教で知り合った夫と結婚する。結婚してからも仕事での人間関係・周囲からの言葉を気にするようになり、仕事を転々として退職した。辞めて精神状態は安定したが、空いた時間の過ごし方が分からずいたので就労継続B型の利用を始める。B型でも周囲の人への言動や周囲の人からの言動が気になる事があり通所出来ない事がある。本人の希望としては人の言葉を気にしないように気持ちの切り替えができるようになれば	本人に対しては、落ち込んだときにはしっかり話を聞いてあげたり、訪問看護の導入を検討してみてもどうか。また、グループで話し合う場に参加して他の人の意見もきけるようにしてみてもどうか。 夫は本人に対して過保護な部分があるので、受診時や家庭内でも本人にできることはさせていくよう助言する。 支援者としては、主治医と連携を図り、医療情報を得て対応する。一般就労を目指すのであれば挨拶や生活習慣をまず身につけるよう支援する。	
12	13	19人	びあ南風	プライドが高く、本心を示さず支援者の介入を拒み、情報収集に困難を極めている脳性麻痺の人への支援について	身障用市営住宅で一人暮らしをしている。支援者からみて、保清・金銭管理が不十分に思えるが本人は「大丈夫」と言い、支援を受け入れない。本人の言う事も曖昧だったり、言う事が変わったりするので確かな情報が得られない。家族は認知症の母のみで周囲からも情報を得る事ができず今後の支援について検討したい。	本人が問題とっていないことをきちんと認識してもらおう。逆に、本人からのSOSを待つ(本人が困っていないことに対して介入しても解決にはつながらない) 情報収集については本人と関係の良い支援者から相談員に情報が入るようにする。支援者のキーパーソンは誰なのか？誰を頼りにできるのか本人に確認する。支援者は本人の価値観(汚れ・破れのある服をきていること)は認めて、こちらの考えを押し付けない。	
1		200人		第13回障害支援者交流の集い			
2	16	20人	神原苑	自宅での様子の情報収集ができにくく、家での状況が苑での情緒不安定につながる高次脳機能障害の人への支援について	39歳男性。高次脳機能障害、構音障害、右麻痺。母親と二人暮らし。日中一時支援で神原苑を利用中。婚姻歴、子供が二人いるが本人に聞いてもわからないと言う。情緒が安定しているときは問題ないが、不安定なときは「母に電話してくれ」と何度も大声で言う。家での親子関係の状況が苑での精神状態に影響する。母親から本人の情報収集ができず、かわり方、アプローチの仕方に困っている。	支援者を増やす。自宅に訪問看護と訪問し、母親と面接をする。母親との関係により日中一時支援事業所での不安定さが見られるのであれば、ショートステイを利用し母親との距離をはかって見てどうか。	

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例の概要	検討項目	意見	課題
3	14	21人	てらや	知的障害の人が、統合失調症の母親の後見人の申し立てをすることになり、支援した事例	妻も知的障害で、二人の子どもがいる。ケアホームで生活している。母は統合失調症で入院中。祖母が亡くなったあとの事を考え「成年後見制度」の申し立てをする事になった。本人が申し立てする事が能力的に難しいのでごやの世話人が手伝いながら申し立てをした。 法テラスの弁護士による助言を踏まえ事例検討する	後見人制度について概要を弁護士より説明。	
4	22	28人	ふらっとNPO法人 コミュニティ	転居を機に外出を始めたひきこもり当事者と家族が、次のもう一步を踏み出すための支援	引きこもり支援についての基本的な対応方法。 当事者と母親、支援者の3人で食事に行くことを検討中だが、それ以外の支援方法の提案	当事者が何に困っているのかの把握、本人との接点の持ち方は、現在の支援者1人ではなく、チームで関わると良い。誰からの情報か、情報の整理。本人の生き方として、認めることも大切。母の視点の転換へ助言。当事者の強み(料理)から、本人へのかかわりを持ち始めてはどうか。	
5	19	27人	市障害福祉課	触法で執行猶予中、福祉サービスを利用しながら地域生活を送る発達障害者の今後の支援について	就労移行、居宅介護(朝・夕各1時間)、計画相談、保健師訪問を実施。 ①不足している支援はないか。 ②今後の目標設定について	①支援が多すぎるのではないか。本人の役割、できることを増やしていく。余暇活動の検討。友人ができるきっかけ作り。 ②本人のストレスを軽減(対応事業所、人数を減らす)。体調・症状の安定をはかる。相談できる相手を増やす。心の支えを見つける。	